

学校経営方針

国・県・市の課題

本校の伝統・使命

学校・地域の課題

【学校の教育目標】

美しい心で 考えて やりぬく子

考える子ども
(みがかれた知性)

思いやりのある子ども
(豊かな情操)

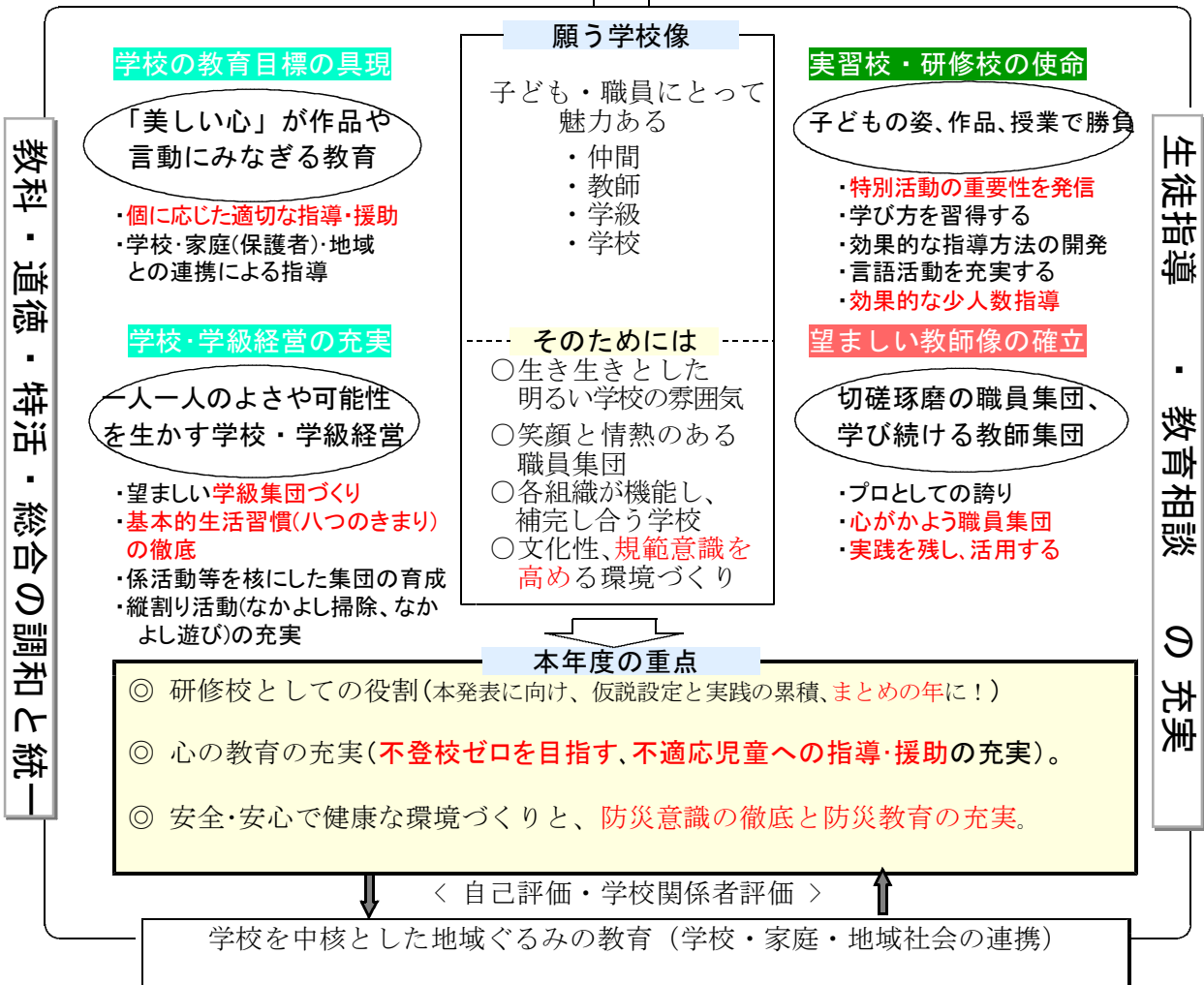
やりぬく子ども
(ねばり強い意志)

じょうぶな子ども
(たくましい体)

【研究主題】

実践力のある子どもの育成

～ 主体的に思考・判断・表現できる子をめざして～



構想の具現に向けて

教育

▶教科

- 1 小中の系統と学年課題を明確にし、PISA型読解力に基づいた「言語活動」を重視した授業を展開し、年間計画を加除修正する。
- 2 児童全員に教科の基礎・基本を定着させる。
- 3 一日一つの「試みのある授業」を展開する。
- 4 少人数(算数)指導を行い、効果的な指導・援助のあり方を実践する。
- 5 英語学習(1～6年生)で会話を重視する。

▶道徳

- 1 「美しい心」の具体的な姿を大いに価値づけ、「よさの学び合い」を重視する。
- 2 年間指導計画をもとに実践し、望ましい板書や展開の仕方を工夫する。

▶特別活動

- 1 「学級づくり(H23.11発行)第二版」に沿った実践を行い、年間計画等を加除修正する。
- 2 適応指導等の考え方・方法を十分理解し、徹底して実践する。
- 3 他教科、領域との関連を重視し、自らの生き方に目を向けさせる。

▶総合的な活動の時間

- 1 特色ある教育活動、コンピュータ教育等の学習を充実し、問題解決能力を身につける。

▶生徒指導・進路指導・人権教育等

- 1 「あいさつ」を中心に、「八つのきまり」を保護者や地域にも働きかけ、定着を図る。
- 2 特別支援学級は生活単元学習を核に、特別支援教育の充実を図る。
- 3 通常学級における支援の必要な児童の共通理解を図り、全職員で指導・援助する。

運営

▶組織

- 1 一人一人が責任を果たし、互いに補完し合う。
- 2 報告・連絡・相談を徹底する。
- 3 三者懇談(校長・教頭・教務)を随時行う。
- 4 子どもの指導・援助、評価等は学年部主任を中心として2学年体制で行う。
- 5 OBとの関係を密にして、共同研究の体制を充実する。

▶施設、設備、その他

- 1 アレルギーに配慮した安全な給食対応に努める。
- 2 児童が安全・安心に学習、生活できるよう環境を整備し、児童、保護者、地域にも働きかける。
- 3 月平均2回のR-dayを活用し、心身のリフレッシュを図る。

学級経営の留意点

1

子ども・保護者の願いを受け止める

- 子どもや保護者の願いを把握するには、連絡ノート、日記などのノート類等を活用し、意図的に行うことが大切です。
- 内容によっては、ノートにコメントを書くことよりも、直接子どもを呼んで話をしたり、保護者に電話をかけた後、直接会って話をすることが真意がわかり、誠意が伝わります。
- 保護者への連絡は、「良くないことは素早く、良いことは遅れてもかまわない」が鉄則です。
- 保護者へは、家庭訪問や懇談会だけでなく、連絡帳や学年通信、電話などで子どもの様子を絶えず知らせると、保護者は学校に目を向けてくれるようになります。
- 良いこと3つに対して、注意1つの割合で話をしましょう。(改善点を一方的にお話しするのは逆効果です)

2

学級目標を常に意識する

- 学級目標は、目標を決めたときの一人一人の願いが大切です。(必ず学級掲示として残しておく)
- 毎時間の授業や一日の終わりに学級の目標に対して、良かった姿を互いに出し合い、教師が認め価値つけていくことが大切です。(どの時間も学級目標を意識させましょう)
- 学期の終わりには、学級目標の達成度を確認し合うことが必要で(時には目標の部分修正もあり得ます)
- 目標が達成された場合、必ずその場で教師が認めることが大切です。(機会をのがすと逆効果になることがあります)
- 望ましい子どもの姿から学級のルールづくりをする。
- 低学年から、学年全体で指導する場を多く持つことが必要です。他の学級の先生から褒めてもらうことや注意をされることに効果があります。(集会の後にその場で)

3

楽しい授業づくり

- 笑いのある授業をする。
- 授業の主役は子どもです。子どもが主役の授業を組み立てましょう。(ねらいを限定し、明確に!)
- どの授業でも、今日は何をするか子どもが分かっている状況をつくりましょう。
- 「今日の3時間目の授業の導入部分は工夫してある!」など、一日に一つの試みのある授業を積み重ねましょう。
- 話し方(説明の仕方)、聞き方等学業指導にあたる部分は、子どものすばらしい姿を掲示し広めていくと効果があります。
- 各教科独自の学業指導に力を入れましょう。
- 積み重ねの学級掲示をする。(積み重ねは特活ではありません)

4

仲間づくり、学習集団づくり

- 集団の発達段階のめやす。
1年生…個～ペア(一人一役)
2年生…ペア～生活G、係G
3年生…生活・係G～任意G(学級)
4年生…係・任意G～学級(学年)
5年生…学級～学年
6年生…学級・学年～全校
- 3年生以上はグループ活動の重視。4年生以上のグループは、目的別の任意グループを生活や学習の中で組む習慣をつけると学級がまとまっていきます。(生活Gが指導の最初で、発達に応じて任意Gを組むこと)
- いつも同じ子がリーダーでないこと、時には良きリーダーになれるような指導が誰にでも必要です。
- 休み時間の遊び方を指導しましょう。集団での遊びは、遊び方の工夫(ルールの工夫)で、全員が遊べるようになります。
- グループ活動には目標が必要です。

※学級や学年には、子どもが仲間と共に取り組む「短期間の目標」が必要です。そして、いつもその目標を意識して生活させることが大切です。つまり、学級には絶えず「何かに対する調」ができていないと学校生活に変化が無くなってしまいます。常に子どもを何かに向けさせていることに留意しましょう。(例:学級の〇〇大会、グループ遊び、漢字テスト、「美しい心」見つけカード、仲良し遊び企画、遠足、修学旅行、宿泊研修など)

※コミュニケーション能力の育成には、朝の会、授業の最初などに特設して、繰り返し訓練すると効果があります。